

「居心地の佳いすまい」を設計し、
持続可能な家づくりを考え、実践する。

菅家太建築設計事務所
<https://kanketadashi.com>
東京∞北海道

この冊子は、これまでの家づくりをとおして感じた疑問や問題を見つめ直し、
これからの家づくりをどのように考えていったらよいかをテーマに、
菅家太建築設計事務所が不定期に刊行する冊子です。

これからのすまい
vol. 7

2021年9月発行

© 2021 TADASHI KANKE

写真：菅家太建築設計事務所（別途記載のあるものを除く）

表紙：この住宅に用いられた材料や構法の特徴がよく表れている出隅の柱まわり。
（設計：菅家太建築設計事務所 / 施工：齊田工務店）
（北海道北斗市）



これからのすまい

菅家太
建築設計
事務所

上：自ら手掛けた住宅の前で話をする齊田綾さん。次の見開き：玄関ポーチの小屋組み。地域の山から出てくる原木は、長さ4m以下が標準。この長さは梁通しの架構をつくるには決してやり易いとは言えないが、齊田さんの手掛ける住宅には、この梁材を使って梁通しの架構をつくるための工夫が随所に見られる。（北海道檜山郡厚沢部町）

プレカット、大壁ならたいして技術なんていらないしょ。大工っぽい人連れてくれば形にはなるよ、とりあえず。

N: まあ、今の人は和室も作らないし。 そういえば俺もここ最近作ってないわ、和室。

私: たしかに、作っても大壁和室っていうか、ただ畳敷きの洋間っていうか・・・、そういうの多いよね。

薪: そういや、うちにも和室って無いわ。

私: ま、和室だけでないけど、階段もプレカットが多いしょ、今は

N: そだ、ほとんどプレカットだわ、今は

薪: なしてよ？ 大工が階段掛けないでどうすんのさ？

N: だって、そんな手間つかないから。高くなるべさ、俺等作ったら。

薪: そういう問題？

私: 確かに、大工手間を削る事考えたら、そうなるって。

薪: でも、あれじゃない？ 増改築なんかも大変じゃないの？

N: そだ。 直す方が大変だわ。 昔の家を直せる人がいなくなる。

私: 確かに。 っていうか、もうだいぶ少ないと思うけど。

薪: 大工さんって、良い仕事なのよね。

N: でも、昔に比べたら良い仕事も無くなったって。墨付けもなければ和室も階段もないから。ま、楽だけど。

私: 墨付けしなくて、刻みもなくて、和室も階段もなかったら、大工じゃなくてもいいでしょ。

薪: じゃ、今の大工って何なの？



「一人で全部できる」ための道具が詰まった齊田さんの作業場。(北海道北斗市)

以上、ブログの文章はここまで。

素性の明らかな羽目板^{は め いた}

山に生えていたヒバの木は、
この3人の手を経て、
住宅の天井に仕上げられました。

「代々守ってきたこの山の木を、どうにか使ってもらえないか」と山主が大工を訪ねてきたことが事の始まり。大工は使い道を考え、製材所が羽目板に加工しました。

この住宅の天井に張られたヒバの羽目板は、これ以上になく素性が明らか。山から住宅まで、材料の履歴をこれほ

ど明確にたどることができるのは、現在の家づくりの現場では稀なことです。

どこから来たのかははっきりわかる材料でつくられた家は私たちに何をもたらし、どこか見知らぬところからやってきた工業製品ばかりの家は私たちに何を忘れさせるのか。あらためて考えてみたいと思います。🏠



左上：ヒバを伐り出した山の山主で林業家のSさん。左下：カラマツの幼木が植わるSさんの山林。（北海道檜山郡上ノ国町 写真：齊田綾）上：羽目板の加工を担当した製材所のOさん。（北海道上磯郡知内町）右：羽目板が張られた室内で作業する大工の齊田綾さん。（北海道北斗市）



巡り巡って

目の前から消え、
始末したと思っていたものが還ってくる。
しかも、かなり厄介な問題とともに。

環境中に排出されたプラスチックゴミがマイクロプラスチックになり、いつしか私たちの食卓にのぼって体内に摂取されるように。

大気汚染防止のため、排ガス中の硫黄酸化物を石灰石に吸収させると排煙脱硫石膏が生まれる。石膏ボードに形を変えて私たちのすまいに定着し、今や処分場のひっ迫から捨てるに捨てられなくなっているように。

フロンガスを放出し、化石燃料を燃やし続け、いつしか地球規模の気候変動を引き起こして私たちの生活が危うくなっているように。

夢の材料と言われたアスベストが、空気中に飛散して肺に吸い込まれ、悪夢であれば良かったと言いたくなるほどの苦痛を引き起こしているように。

目の前の材料がどこから来てどこへ行くのか。材料に対する理解は、深ければ深いほど、広ければ広いほど、そして、追いかける時間は長ければ長いほど良い。

今を吹き抜ける風も、はるか昔から吹いてきた風であり、またいつか、どこかの風になるから。☺



左：整然と積まれた廃石膏ボード。このあとはいりサイクルが埋立地か。(栃木県小山市) 上：実生から生長したナラの幼木。家具や住宅に使えるようになるのは早くても数十年から百年後。(北海道上磯郡知内町) 右：風化した納屋の外壁。土、木、竹、藁。土に還る材料でつくられたすまい。(埼玉県飯能市上名栗)

